

製品名: ポドプランニン (11C17) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe16336**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000
分子量	17kDa

抗原情報

遺伝子名	PDPN
別名	Aggrus; Glycoprotein 36 KD; GP36; GP38; GP40; HT1A1; hT1alpha1; hT1alpha2; OTS8; PA2.26; Pdpn; Podoplanin; T1 alpha; TI1A; TIA2;
遺伝子 ID	10630.0
SwissProt ID	Q86YL7
免疫原	ヒトポドプランニン/gp36 の合成ペプチド

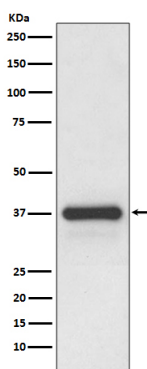
背景

細胞遊走および / またはアクチン細胞骨格の組織化に関与している可能性がある。ケラチノサイトで発現すると、細胞形態の変化を誘導し、トランスフェクトされた細胞は細長い形状、多数の膜突起、アクチン細胞骨格の大幅な再編成、運動性の増加、および細胞接着の減少を示す。出生時の正常な肺細胞の増殖および肺胞形成に必要である。血小板凝集を誘導する。様々なパートナーを介して細胞遊走および接着に影響を及ぼす。発生過程において、CLEC1B に結合して血管とリンパ管の分離に関与し、血小板における CLEC1B の活性化を引き起こし、血小板の活性化および / または凝集につながる (PubMed:14522983、PubMed:15231832、PubMed:17616532、PubMed:18215137、PubMed:17222411)。一方、CD9 との相互作用は PDPN 誘導性血小板凝集を減弱させる (PubMed:18541721)。MSN または EZR との相互作用は上皮間葉転換 (EMT) を促進し、ERZ リン酸化を誘導し、RHOA 活性化を誘発して細胞遊走の増加と浸潤を引き起こす (PubMed:17046996、PubMed:21376833)。CD44 との相互作用は、上皮細胞および腫瘍細胞における方向性のある細胞遊走を促進する (PubMed:20962267)。リンパ節 (LN) では、ERM タンパク質 (EZR、MSN、RDX) を維持することにより、線維芽細胞網状細胞 (FRC) の細胞外マトリックス (ECM) への接着とアクチンミオシンの収縮を制御し、未知の膜貫通タンパク質との会合を介して MYL9 を活性化する。PDPN による CLEC1B の関与は、側方膜相互作用を阻害することで FRC の弛緩を促進し、ERM タンパク質 (EZR、MSN および RDX) の減少と MYL9 の活性化 (類似性による) につながります。LGALS8 との結合を介して、リンパ管内皮と周囲の細胞外マトリックスの接続に関与している可能性があります (PubMed: 19268462)。ケラチノサイトでは、細長い形状、多数の膜突起、アクチン細胞骨格の大幅な再編成、運動性の増加、細胞接着の減少を示す細胞形態の変化を誘導します (PubMed: 15515019)。浸潤突起の安定性と成熟を制御し、RHOC 活性の調節を介して ROCK1/ROCK2 と LIMK1/LIMK2 を活性化し、CFL1 を不活性化することで、腫瘍細胞内の細胞外マトリックス (ECM) の効率的な分解につながります (PubMed: 25486435)。出生時の正常な肺細胞の増殖と肺胞形成に必要である (類似性による)。水チャンネルとして、またはアクアポリン型水チャンネルの調節因子として機能しない (PubMed:9651190)。葉酸やアミノ酸の輸送には影響を与えない (類似性による)。

研究分野

心血管系

画像データ



ヒト胎盤溶解物中のポドプラニン発現のウェスタンブロット分析。